体験学習の「効果と課題」

教育旅行年報データブック2014「国内修学旅行の実態とまとめ」から

日本修学旅行協会

教育面で肯定的評価
豊富なメニューが後押し

日本修学旅行協会（河上一雄理事長）は、修学旅行を中心にした「教育旅行年報　データブック2014」を毎年発行している。同年報の高等学校の「国内修学旅行の実態」から、体験学習に焦点を当てて抜粋する（要約）。

◆実施状況

修学旅行で体験学習を実施した学校は、全体では59・2%であり、前回の61・2%からやや減少したものの、依然として多い。このことは次の項目の体験学習の教育的効果についての調査結果にも出ており、意見のほとんどが肯定的な内容であった。

近年、受け入れ側の積極的な取り組みもあり体験学習メニューも豊富になり、北海道や沖縄での「普段は体験できない大自然の中での体験を通して、多くの感動や視野を広げる」などの教育的効果を挙げている。

体験学習内容ではスポーツ体験が最も多く、中でもマリンスポーツ、スキー・スノーボード、ラフティングなどの人気が高い。次いで伝統工芸・物作り（シーサー作りなど）、農山漁村体験（特に農村体験）、料理・食材加工体験（菓子作りなど）と続く。

年報の概要

高等学校の「国内修学旅行の実態」は、2013年度に調査が実施されたもので、国公立・私立の高等学校4981校から28663校を抽出し、国公立623校、私立372校の計905校から回答を得た。

内容は①実施状況②不参加者の理由③実施時期④実施学年⑤保健指導のための引率者⑥旅行日数⑦旅行費用⑧主な交通手段⑨旅行内容⑩班別自主行動⑪体験学習⑫防災（避難）訓練の取り組み――など詳細に調査分析している。

また、高等学校だけでなく中学校についても同様の項目を調査分析しているほか、海外・訪日教育旅行実態もとりまとめている。

後述の体験学習の課題・問題点に多く出てくるが、体験学習の費用が高く経済的負担が大きいことが今後の課題である。

◆教育的効果

体験学習の実施とその効果については、肯定的な意見が圧倒的に多かった。体験学習の効果内容としては、生活態度や社会性面での効果があったとする回答が90件と多かった。

◆体験学習の課題・問題点

体験学習に対しては肯定的な意見がほとんどであったが、一方では天候上の問題や体験学習に参加する生徒・学校側の課題も出ている。

また、体験学習の費用が高く人気のラフティングやマリンスポーツ関係のほとんどが1人5千円以上かかることから、課題として「経費の制約」が出ており、「金銭的な負担が大きく、参加できない生徒がいる」などの意見も出ている。

◆体験学習のまとめ

学習指導要領では、修学旅行を特別活動のうちの学校行事「旅行・集団宿泊的行事」に位置付け、そのねらいを「自律的な集団行動を通して、健康や安全、集団生活のきまりや社会生活上のルール・公衆道徳などについて、望ましい体験を得ることにより、人間としての在り方、生き方についての自覚を深める」としている。修学旅行における体験学習は、このねらいを実現し、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの、まさに生きる力の基盤、成長の糧としての役割を果たすものであり、アンケート回答にあるようなさまざまな教育的効果をもたらしている。今後、実施上の課題、問題点をどう解決していくか、各学校の一層の創意工夫が期待される。

◇　◇

体験学習は、修学旅行や教育旅行における「活動」の一形態にほかならない。同データブックから、体験学習と密接な関係にある活動の実際、そのフィールドである旅行先、形態を代表する班別自主行動に触れておく。

◆重点活動

重点を置いた活動の件数・構成比では、前回と比較して上位5位内（①歴史学習②平和学習③スポーツ体験④自然・環境学習⑤芸術鑑賞・体験）の順位は同じだが、6位に「マリンスポーツ（ダイビング・シュノーケリングなどを含む）」が今回新たに入ってきた。

また、前々回（10年度実施）にベスト10入りをした「伝統文化・伝統芸能や祭り体験（香道・舞妓・着付け・三味線・ペーロン・エイサーなど含む）」は8位と、上位に定着している。

一方、かつては主要な旅行内容であった「博物館の見学」や「美術館などの見学」は過去（08年実施分）では2位であったが、この4年間で大きく順位が下がり、スポーツ体験（マリンスポーツなど）や「職場訪問・職場体験」などが徐々に上がってきており、スポーツやキャリア教育への関心が増してきていると思われる。

また、高等学校の国内修学旅行では沖縄、北海道が多いので自然体験、マリンスポーツ、ラフティング、食品作り体験などの地域の特性を生かした体験学習が多く組み込まれてきている。公立校では学校見学（大学、専門学校など）をする学校もある。

さらに、重点を置いた活動を大きく「歴史学習」関連や「平和学習」関連などに分類した分類別件数比率を見ると、「歴史学習（史跡・町並・寺社・産業遺産・博物館の見学など）」が738件（33・7%）、「平和学習」が407件（18・6%）、「スポーツ体験（スキー・スケート・ラフティング・カヌーなど）」が343件（15・6%）で、この3分類内容で全体の70%近くを占める。

◆旅行先について

上位5位までの旅行先は、トップは前回に引き続き沖縄県で、東京都が3位から2位になり、3位が京都府、そして大阪府、千葉県の順である。大阪府、千葉県はテーマパークの人気が大きな要因であろうか。前々回2位の北海道は前回5位、今回は6位となっている。7位以下は前回と大きな順位の変動はない。

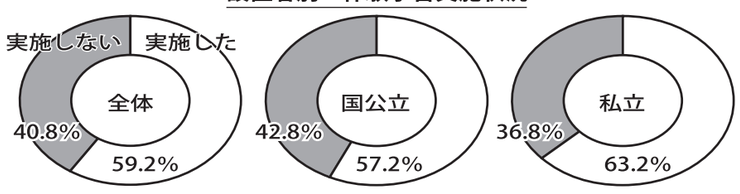
◆班別自主行動

今回の調査では班別自主行動の実施率が82・6%と前回（81・6%）からさらに上がり、班別自主行動が修学旅行での最も一般的な学習方法として定着したと言える。

また、班別自主行動の人気場所は京都市内、東京都内、那覇市の国際通り、長崎市内、沖縄本島内がベスト5である。

さらに、班別自主行動の平均時間は5・5時間であるが、実施する場所によっては国際通りや札幌市内の3時間前後から、京都市内・東京都内・大阪市内などでは7時間前後の班別自主行動を行っている。

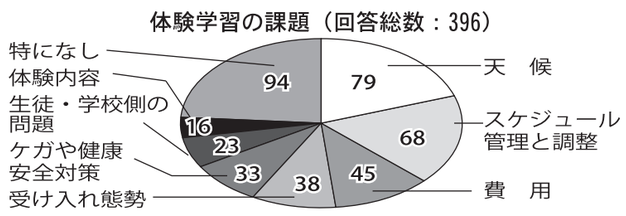
設置者別　体験学習実施状況



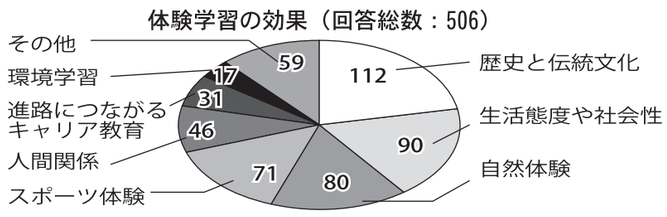
体験学習の効果内容

項目	体験効果内容
歴史と伝統文化	一流の芸を見たり、首都を違う角度から見ることにより日本の最先端に触れることができた
	江戸文化に触れて日本の文化に親しむことができた
	沖縄の文化自然に接し歴史・文化・地理的な興味関心を涵養し知識と豊かな情操を育成する
	京都の伝統工芸を体験することで生徒が興味と関心を持った
	事前学習を行い発表会を実施することで目的地に関する歴史伝統文化平和の意義について共有することができた
	本格的な座禅体験をしたので多くの生徒が感銘を受けた
	戦争体験者から聞く体験談は平和を考える上で非常に有意義である
	平和の大切さや平和への取り組みを考えることができた
	北方領土を直接見て領土問題への関心が向いた
	歴史的な建造物と近代的な建造物を見てその背景を考えさせ興味をもたせることができた
	和菓子作りを通し日本文化を体験し食への関心を高めさせることができた
生活態度や社会性	おもてなしの心について、学ぶことができた
	校外での集団生活・行動により協調性・連帯感の育成および公共道徳の習得を図れた
	自主自律を図り相互の親睦を深めることができ教育効果は大きい
	集団における自分の役割を知るという効果がある
	体験を通して見聞を広め、協力して物を作る喜びを実感させることができた
	手作りの物づくりの素晴らしさを知ることができた
	仲間と協力しながら物づくりを行うという普段できない体験を目的とした
	生徒は、農業体験を通して食物の大切さに気づいた
	農泊を通して豊かな人間関係と社会的道徳を養うことができた
	人や親に感謝する気持ちを持つ効果がある
	民泊体験により携帯やゲームのない生活を知った
自然体験	伊是名島の自然の中で日常得られない体験を通じ文化や自然の素晴らしさを経験する
	海の楽しさ、危険性を知り、自然を守る情操教育となる
	自然に触れ日本の国土に対する関心を高めさせる
	自然への興味と関心を抱き、新たな発見で自然との共生への理解が進む
	北海道の自然や文化を学ぶことができ、豊かな感性が養われた
	北海道の大自然の中で多様な風土文化に対する理解を深める
スポーツ体験	あきらめない心と教えあい助け合う心について学ぶことができた
	研修に参加することで上達する過程を身を持って体験できるので達成感を味わうことができる
	スキー研修を通して友情、助け合い、問題解決能力などを培い自信につながった
	ダイビングは初めての生徒が多く、いい経験になった
	日頃できない体験、活動を通して基礎、基本の大切さを再認識できた
人間関係	学校外で人とかかわる機会となった
	教師と生徒、生徒同士の信頼関係が培われた
	生徒は、現地の人たちと触れ合うことができ、温かいもてなしに感動した
	世代、生活環境が違う他人と交流し、自分の生き方を考え直すことができた
	民泊であったため家族的な交流があり、地域の人々との交流も図れた
進路につながるキャリア教育	80% 程度は自分の進路や職業を考えるうえで参考になったとアンケートで答えている
	大学での聴講で「何を学ぶ」と「どこで学ぶか」につながると期待できる
	違う環境や、立て直した企業の話などが生徒の心に響いた
	美術デザイン課であるので金箔貼り体験により感性を磨き今後の意欲につながったと思われる
	ロケット作りや企業の社長の話は工業高校の生徒にはよい体験になった
環境学習	海中の生物の美しさ、サンゴの保護を通して環境を守ることの大切さを知る
	海に囲まれた環境が異なる生活を知り、また異文化を知ることができた
	珊瑚礁の白化現象を見て地球温暖化などの環境問題に触れることができた
	自然環境体験を通してその地域の生活や文化を理解することができた
	自然環境の意識を高め、集団マナーを身につけさせる

体験学習の課題（回答総数：396）



体験学習の効果（回答総数：506）



体験学習の課題内容

項目	体験課題内容
天候	悪天候時の代替案
	実施が 11 月下旬のため沖縄でも海に入った後はかなり寒いこと
	スキー体験は天候の状況により時期調整が必要となる
	台風の影響で 10 月から 2 月に変更になった
	野外では天候により中止になることがあり修学旅行ではリスクが高い
スケジュール管理と調整	移動距離が長いので負担が大きい
	過密な日程になりがちなので、行程を考えることが課題
	希望調整と人数調整が大変
	クラス別の体験としたが内容や料金の調整に苦労した
	同時に複数を体験する時間的余裕がなく今回も四つの中から選択だった
	内容を充実させるには時間が足りない
	盛りだくさんにしたため体験学習の時間が短くなった
費用	金銭的な負担が大きく参加できない生徒がいる
	費用が各自負担とある
	費用面が限られるためカヤック体験などができず選択肢が限られた
	費用を同一にするのに苦労した
	マリンスポーツの費用が高額
受け入れ態勢	受け入れ家庭によって対応や内容が違うこと
	受け入れ企業が直前まで次々と変わった
	現場の指導員の安全対策への認識に差がある
	収容人数の関係で希望通りにはならない
	戦争の語り部が高齢化している
	専門員は少なくほとんどがアルバイト
ケガや健康・安全対策	インフルエンザの流行時期で体調管理が課題
	環境の変化により体調不良の生徒が出た
	ケガなどの理由でスキーができない生徒へのプログラム（観光・もの作り）
	生徒の安全対策を十分にするため体験内容が中途半端になった
	水辺の活動なのでライフジャケットが必要
	ラフティングにインストラクターは付くが安全性に課題が残る
生徒・学校側の問題	2 日目以降の生徒の技量差
	受け入れ地が分散したので教員間の意思疎通の徹底が課題
	興味を示さない生徒への対応
	事前学習の時間が取れなかったのでオペラや落語は理解しづらかった
	修学旅行の不参加者が多くなった
	生徒に得意、不得意がある
体験内容	マリンスポーツは人数が多いため教員の配置などに課題がある
	学校の目的とする内容と体験先の実施可能な内容の調整がつかないものもあった
	観光が目立ちすぎる場合がある
	見学や講話がやや多くなった
	高校生にはやさしすぎた
	体験学習のメニューの選択枝が少ない場合がある

4. 料理・食材加工体験の主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	菓子作り	38	28.6	2,146
2	アイス・ジャム作り	21	15.8	3,023
3	郷土料理作り	11	8.3	2,277
4	そば打ち	8	6.0	2,344
5	乳製品手作り	5	3.8	1,426

5. 自然体験・環境学習の主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	グラスボート	14	13.2	2,241
2	自然体験	8	7.5	2,818
3	洞窟体験	6	5.7	2,283
4	ホエールウォッチング	5	4.7	3,920
4	イノー観察	5	4.7	3,520

6. 歴史・芸術・文化体験などの主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	沖縄文化体験	27	29.0	3,098
2	オペラ・観劇など	8	8.6	17,198
3	京都伝統文化	6	6.5	2,884
4	寺社・城見学など	5	5.4	1,860
5	ペーロン	4	4.3	2,388

7. 平和学習・講和などの主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	壕見学	11	36.7	332
2	被爆者講話	6	20.0	138
3	戦争体験講話	5	16.7	466
4	震災体験講話	2	6.7	—

8. 職業・進学体験などの主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	都内大学見学・聴講	3	13.0	2,000
2	販売実習	2	8.7	300
3	テーブルマナー	2	8.7	3,650
4	物づくり職場体験	1	4.3	4,500

内容区分別上位の体験学習　（単位：件数、%、円）

順位	体験学習内容区分	件数	構成比	平均費用
1	スポーツ体験	484	39.7	6,413
2	伝統工芸・物作りなど	191	15.7	2,569
3	農山漁村体験	138	11.3	6,265
4	料理・食材加工体験	133	10.9	2,448
5	自然体験、環境学習	106	8.7	3,054
6	歴史・芸術・文化体験など	93	7.6	4,402
7	平和学習・講話など	30	2.5	1,194
8	職業・進学体験など	23	1.9	2,969
9	その他※	21	1.7	4,345
	合計	1,219	100.0	4,697

※その他：震災ボランティア体験や街頭英語プログラムなど

1. スポーツ体験の主な内容　（単位：件数、%、円）

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	マリンスポーツ	202	41.7	5,333
2	スキー・スノーボード	63	13.0	12,871
3	ラフティング	44	9.1	5,746
4	サイクリング・マウンテンバイク	24	5.0	3,332
5	乗馬	5	1.0	5,500

2. 伝統工芸・物作りなどの主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	シーサー作り	18	9.4	1,957
2	むら咲むら	14	7.3	2,481
3	ガラス工芸	12	6.3	2,365
4	ものづくり体験	6	3.1	3,389
5	伝統工芸	6	3.1	2,033

3. 農山漁村体験の主な内容

順位	体験学習内容	件数	構成比	平均費用
1	農村体験	30	21.7	10,060
2	魚釣り	23	16.7	3,608
3	サトウキビ収穫	12	8.7	2,607
4	漁業体験	9	6.5	8,233
5	酪農体験	7	5.1	4,093